



学校だより

令和8年10月7日（水）発行
札幌市立二十四軒小学校

学校HPアドレス

<https://www.nijuyonken-e.sapporo-c.ed.jp>



令和8年度 全国学力・学習状況調査

二十四軒小学校の調査結果と傾向について

日頃より本校の教育活動に深い御理解と温かい御支援をいただきありがとうございます。

さて、今年度の4月に6年生を対象に実施されました「全国学力・学習状況調査」について、調査結果の概要をお知らせします。この調査は6年生に実施されたものですが、課題につきましては学校全体で捉え、本校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てたいと考えております。

	二十四軒小学校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
国語	《言葉の特徴や使い方に関する事項》 ◇全国平均を上回っている。 《情報の扱い方に関する事項》 ◇全国平均を上回っている。 《話すこと・聞くこと》 ◇全国平均とほぼ同程度である。 《書くこと》 ◇全国平均を上回っている。 《読むこと》 ◇全国平均を上回っている。	▲資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。	○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する指導の充実。 例) 自分の考えを伝える学習活動では、どのような資料を用意するか、また、その資料をどのように提示しながら話すとよいかを考える活動を工夫。
算数	《数と計算》 ◇全国平均を上回っている。 《図形》 ◇全国平均を上回っている。 《測定》 ◇全国平均を上回っている。 《変化と関係》 ◇全国平均を下回っている。 《データの活用》 ◇全国平均を上回っている。	▲百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができること。 ▲単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できること。 ▲基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶこと。	○日常生活の様々な問題場面において事象を数理的に捉え、数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について数直線や図を用いて考察できるようにする指導の充実。 例) 「20%オフ」と「300円引き」のどちらがお得かなど、実際の買い物場面をもとにした学習などの工夫。

児 童 質 問 紙 に よ る 学 習 状 況 調 査 の 結 果 か ら

学 習 面	○全国の割合と比べて、国語の勉強が好きだと思っている児童が多く、内容を理解し、文章などを引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫していると回答した児童が多い。 ○全国の割合と比べて、ICT 機器を使って必要な情報を集めたり、自分の考えを表現したりすることができるという回答した児童が多い。 ▲全国の割合と比べて、学校の授業時間以外に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますかという質問に対して、普段（月曜日から金曜日）は1 時間以上行くと回答した児童が多いが、土曜日や日曜日など学校が休みの日には1 時間より少ないと回答している児童が多い。
生 活 面	○全国の割合と比べて、自分にはよいところがある、地域や社会をよくするために何かしてみたい、と回答した児童が多い。 ○全国の割合と比べて、将来の夢や目標をもっていると回答した児童が多い。 ○全国の割合と比べて、自分と違う意見について考えることが楽しいと回答した児童が多い。 ○全国の割合と比べて、人と違う意見を言っても否定されないと回答した児童が多い。

本調査は、子どもの学習状況及び、それに関わる生活状況についてのアンケート結果を表したものです。全国の割合と比べて、差異の大きい質問のうち、「肯定的な回答の多いもの」と、「肯定的な回答の少ないもの」の結果を学習面と生活面に分けて掲載しました。

学習面では、国語の勉強は好きだと感じている児童が多く、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答している児童も多いという実態があります。また、ICT 機器を効果的に活用できていると感じる児童も多く、ICT を活用した授業を充実させてきた結果が現れてきていると捉えることができます。

学校の授業時間以外について、平日は「1 時間以上」学習を行う児童が多い一方で、土日などの休日には「1 時間より少ない」と回答した児童が多く、休日の家庭学習の時間をいかに確保するかが課題として挙げられます。日々の授業改善に努めるとともに、子どもたちの「自主学習」を一層支援していきます。

生活面では、自分を肯定的に捉え、将来の夢や目標をもっている児童や地域や社会をよくするために何かしてみたいと考えている児童が多いという特徴が調査結果から明らかになっています。自分と違う意見について考えることに楽しみを感じる児童が多く、人と違う意見を言っても否定されないと思えるからこそその結果ではないかと考えることができます。今後も子どもたちが将来の夢や目標をもち、多様な意見を楽しみながら学び合える環境をさらに発展させるために、子どもたちの良さを引き出すとともに、対話的な学びを充実させたり、安心できる学級づくりの工夫を図ったりしていきます。

新指導要領が 2030 年から全面実施となります。新指導要領では、子どもたちが主体的に学び、自らの人生を切り拓く力や、多様で豊かな可能性を開花させる教育を実現するためには、一人一人が好奇心を深掘りし、学びを主体的に調整しながら自身の人生やより良い社会につなげていく「質の高い探究的な学び」が不可欠とされています。その実現に向け、本調査の把握・分析を生かすとともに、情報活用能力の育成をはじめ、柔軟な教育課程の編成の在り方などを検討していきます。

夢・笑顔・挨拶 いっぱい 自ら動く子ども
～ 「あこがれ」と「思いやり」でつながる 学校～